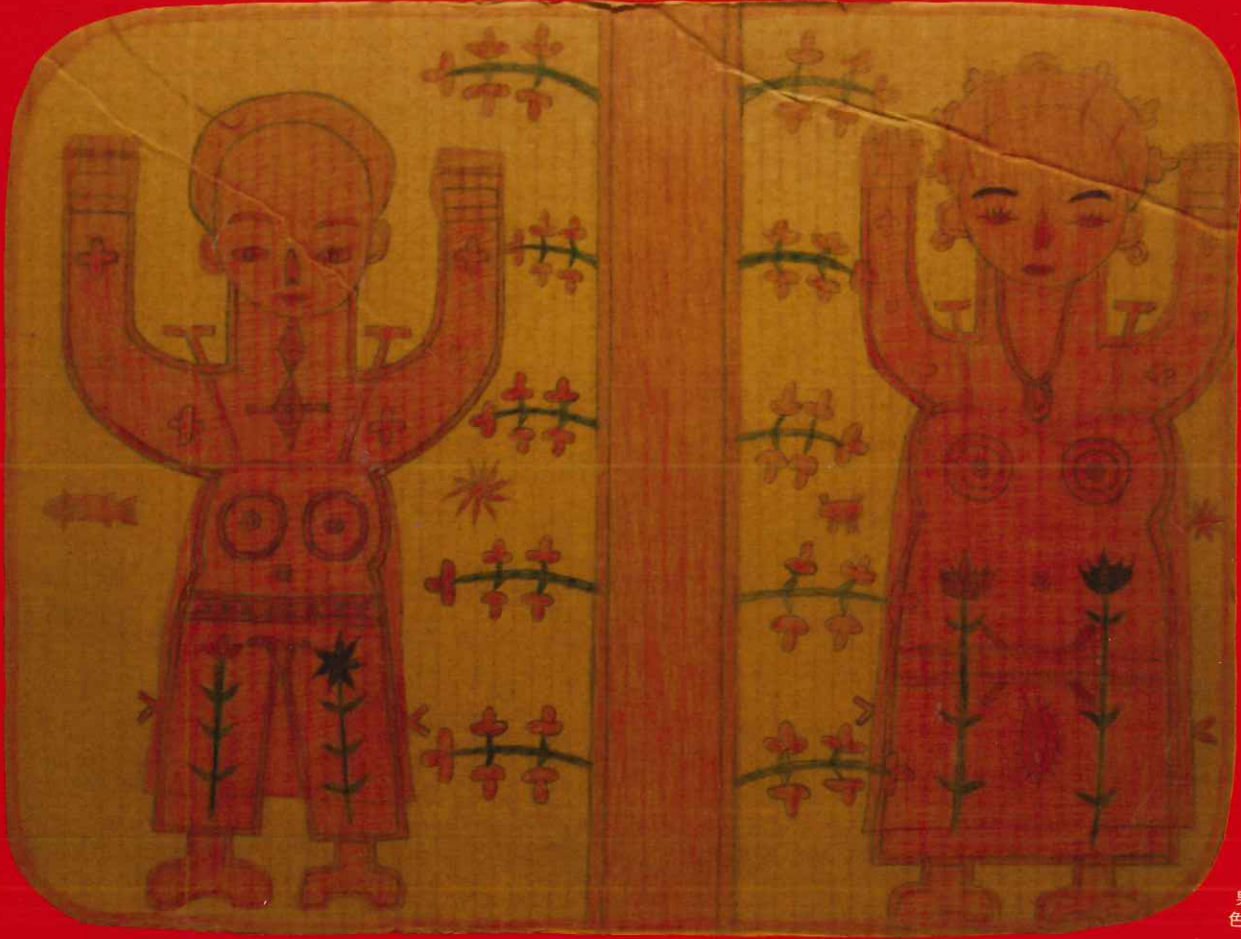


Rouge brut

小幡正雄展



男女 420×550 mm
色鉛筆・段ボール紙

2017年10月14日(土) ~ 10月25日(水)

ギャラリー島田 B1F open 12:00~19:00

火曜日は~18:00、最終日は~17:00

小幡正雄への道

2012年の「赤鉛筆のアウトサイダー」(兵庫県立美術館)で小幡正雄と出会った。その時は私が今回の展覧会を手がけるとは思ってもみなかった。実現へ至るには二つの要因があった。一つ目は、尊敬してやまない東山嘉事さんが小幡正雄の才能を発見したこと。嘉事さんには展覧会、パフォーマンスなど様々にお世話になり、2006年12月に72才で亡くなられて、「追悼展~不無不夢寿限無経偈~」を開催。ギャラリーのパティオにあったオートバイと人間が合体したオブジェ「共存の哲学」が兵庫県立美術館に嫁入りし、「風刺とユーモア!カジさんのフムフム・ワールドへようこそ」が2008年11月から4か月間、同館の小企画展として開催された。その仲人を務めて下さったのが服部正さんだった。

二つ目としては私のアウトサイダー・アートへの偏愛がある。それは美術の世界で定義される教育や属性にまつわるものではなく、自立、固執、孤立といった「異端」であることにすぎないが、自らも因子として抱えているからだろう。小幡正雄の存在も Inside と Outside を行き来しながら、その作品は嘉事さんの発見と服部さんの強い意志によって Art として Rescue されようとしている。そうした思いがこの場で結実してくれればうれしい。

島田 誠

ギャラリー島田



Rouge brut 小幡正雄展

ギャラリー島田 B1F

2017年10月14日(土)～10月25日(水)

小幡正雄(1943～2010)は、50歳の頃に絵を描き始めた。生活していた神戸の福祉事業所で、ダンボールを集めては好みの大きさに切って、夜な夜な絵を描いていた。描かれるのは、家族の情景や結婚式、バスや列車、戦車や軍艦、そして手に入れたいと願っている楽器や嗜好品だ。小幡の作品には、孤独で厳しい前半生を歩んできた彼の憧れや願い、恐れや怒りが凝縮されている。平穏な終の棲家で、吐き出すように描き続けた小幡の思いの丈を受け止めたい。

服部 正(甲南大学)

【略歴】

- 1943年 岡山県生まれ
- 1989年 神戸市の障害者支援施設くすのき会ひふみ園で生活を始める
- 1995年 この頃、美術家の東山嘉幸に才能を見いだされる
- 2010年 逝去

【展覧会歴】

- 1998年 アートナウ98、「ほとぼしる表現力」展(兵庫県立近代美術館)
- 2006年 快走老人録(ポードレス・アートギャラリー NO-MA)
- 2008年 アール・ブリュット 交差する魂展(旭川美術館、ポードレス・アートミュージアム NO-MA、汐留ミュージアム)
- 2008-2009年 ジャпон(日本)展(スイス・ローザンヌ、アール・ブリュット・コレクション、オーストリア・ウィーンに巡回)
- 2010年 アール・ブリュット・ジャポネ展(フランス・パリ、アル・サン・ピエール、2011～2013年に日本国内7会場を巡回)
- 2012-2013年 赤鉛筆のアウトサイダー 小幡正雄展(兵庫県立美術館)

その他、国内外での展覧会多数



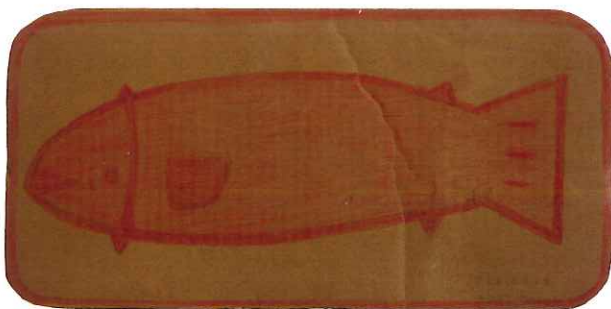
結婚式 227×459 mm
色鉛筆・段ボール紙



無題(女) 470×313 mm
色鉛筆・段ボール紙



無題(男) 470×313 mm
色鉛筆・段ボール紙



魚 227×459 mm
色鉛筆・段ボール紙

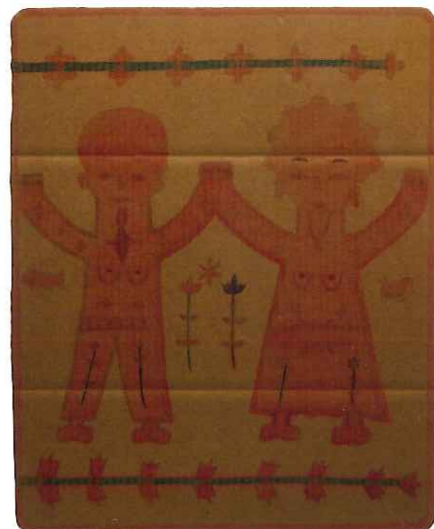
第329回火曜サロン 小幡正雄さんのこと

ゲスト：服部 正(甲南大学)、山崎美和(ひふみ園)、進行：島田 誠

日時：2017年10月17日(火)18:30～

会場：ギャラリー島田 B1F

会費：無料



男女 629×507 mm
色鉛筆・段ボール紙